



営農NEWS



ダイズ圃場への帰化アサガオやアレチウリの侵入を防ぎ、発生初期の防除を徹底しましょう

近年、ダイズ圃場で帰化アサガオ（マルバルコウ、アメリカアサガオ、マメアサガオなど）が多発生している圃場を見かけますが、これらは熱帯アメリカや北アメリカ原産の帰化植物です。繁殖力が旺盛で、圃場ばかりでなく、畦畔など周辺でも繁殖し、そこからさらに周辺の他の圃場に侵入して増殖を拡大しています。

さらに近頃は、アサガオ類と同じつる性の植物で、北アメリカ原産のアレチウリが侵入してきました。これは、つるの長さがアサガオより数倍の 10m 以上にもなり、圃場に数本発生しただけで甚大な被害となります。春から秋までダラダラと発生し、種子が大きくて土中の深いところからも発芽するため、河川敷などに大群落を作ったりします。

帰化アサガオやアレチウリは、いずれも土壌に処理する除草剤の効果が低く、非選択性の茎葉処理剤などが有効ですが、大きくなるとつるが伸びてダイズにまつわりつき、除草作業が困難となりますので、生育初期の徹底した防除が必要になります。

<帰化アサガオ類防除のポイント>

1. 帰化アサガオ類の発生は長期間みられますが、ダイズ圃場では多くがダイズ播種後 2~3 週間に集中して発芽します。このため、ダイズの苗立ちや初期生育を順調に確保して、早く茎葉を繁茂させて地表を覆うことが重要です。そのためには、転換畑等ではしっかりと排水対策を行いましょう。
2. 帰化アサガオ類の生育初期に大豆バサグラン液剤を茎葉散布すると効果的です。ダイズの生育を見極め（ダイズ 2 葉期～開花前まで）、アサガオ類（特にマルバルコウ）が 3 葉期以下の時に防除します。なお、土壌処理剤の除草効果は低いです。
3. 帰化アサガオ類やアレチウリがつる化しないうちに、中耕培土を行うと有効です。中耕培土は除草効果の他、土壌通気性の改善、ダイズ根茎の発達、倒伏防止などの効果も期待できますので、開花期前までに（開花期以降の中耕は、根を傷めますので避けてください）アサガオ類やアレチウリにしっかりと土をかぶせるように培土することがポイントです。
4. ダイズ生育期の除草として、帰化アサガオ類の開花が始まったら、実をつけないうちに直接茎葉に除草剤を散布します。この場合、ダイズの畦間処理だけでなく株間処理も可能な薬剤を選択すると、より効果的です。なお、乗用管理機で専用の吊り下げノズルを用いて散布すると省力的です（この場合、散布効率から畦幅は 60 cm 程度が必要です）。除草剤の散布は、帰化アサガオ類などの発生状況にもよりますが、複数回行うと効果的です。しかし、多発生した圃場では 1 年だけの防除で完全に撲滅させることができませんので、2~3 年間継続して防除することが必要になります。

<アレチウリ防除のポイント>

1. 帰化アサガオ類に準じて防除を行いますが、アレチウリは帰化アサガオより除草剤の効果が低く、大きくなると防除の基本は抜き取りです。なお、雑草茎葉に直接塗布する除草剤（タッチダウン iQ 2 倍液の 0.1ml を雑草茎葉の 1~3 カ所/株に塗布 [500ml/10a] : 雑草生育期 但し収穫 7 日前まで 2 回以内）を専用の塗布器で処理すると有効です。

<帰化アサガオ類やアレチウリを圃場に侵入させない>

1. 圃場の中に帰化アサガオ類やアレチウリを侵入させないために、地域全体として雑草類のまん延を阻止する対策が必要です。圃場の周囲や農道脇、河川敷などに生息していたら、地域全体で除草を徹底しましょう。帰化アサガオ類やアレチウリは種子を着けないうちに抜き取りや刈取り、また、非選択性除草剤の散布なら 6 月上旬から約 40 日おきくらいに 3 回程度防除を行う必要があります。

表 1 ダイズ圃場での帰化アサガオ類に効果のある主な除草剤（平成 29 年 6 月 28 日現在）

薬剤名	使用薬量	使用方法	使用時期	使用回数	散布水量
大豆バサグラン液剤 (ナトリウム塩)	100~150mℓ /10 a	雑草茎葉散布 又は全面散布	ダイズの 2 葉期～開花前(雑草の生育初期～6 葉期) 但し、収穫 45 日前まで	1 回	100ℓ/10 a
	300~500mℓ /10 a	畦間雑草 茎葉散布	ダイズの生育期(雑草の生育初期～6 葉期) 但し、収穫 45 日前まで		
バスタ液剤	300~500mℓ /10 a	雑草茎葉 散布	播種前(雑草発生期)	3 回以内	100~150ℓ /10 a
			播種後出芽前(雑草生育期)		
			収穫 28 日前まで(株間処理:本葉 5 葉期以降:雑草生育期)		
			収穫 28 日前まで(畦間処理:雑草生育期)		

注) 雑草が大きくなると効果が低下します。適期に、ダイズに飛散しないよう注意して散布してください。

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

※ JA 全農いばらきホームページでもご覧になれます。



生産資材部 営農企画課

電話: 029-291-1012 FAX: 029-291-1040